

アイクルシグ錠 15mg

【この薬は？】

販売名	アイクルシグ錠 15mg ICLUSIG tablets 15mg
一般名	ポナチニブ塩酸塩 Ponatinib hydrochloride
含有量（1 錠中）	ポナチニブ塩酸塩 16.03mg （ポナチニブとして 15mg）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗悪性腫瘍剤に属する薬です。
- ・この薬は、異常なたんぱく質（チロシンキナーゼ）の働きを選択的に阻害することにより、がん細胞の増殖を抑えます。
- ・次の病気の人に処方されます。

前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病

再発又は難治性のフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病

- ・染色体検査または遺伝子検査により慢性骨髄性白血病またはフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病と診断された人に使用されます。
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 患者さんや家族の方は、この薬の必要性や注意すべき点などについて十分理解できるまで説明を受けてください。説明に同意をした場合に使用が開始されます。
- 心筋梗塞、脳梗塞、網膜動脈閉塞症、末梢動脈閉塞性疾患、静脈血栓塞栓症などの重篤な血管閉塞性事象があらわれ、死亡に至った例も報告されています。この薬を使用する前に虚血性疾患（心筋梗塞、末梢動脈閉塞性疾患など）や静脈血栓塞栓症などの有無、心血管系疾患の危険因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）の有無の確認が行われます。また、この薬の使用中に胸痛、腹痛、四肢痛、片麻痺（片側のまひ）、視力低下、息切れ、しびれなどの症状があらわれた場合は、ただちに医療機関を受診してください。
- 重篤な肝機能障害があらわれることがあり、肝不全により死亡に至った例も報告されています。この薬を使用する前および使用中は定期的に肝機能検査が行われます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にアイクルシグ錠に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・妊婦または妊娠している可能性がある人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・膵炎（すいえん）にかかっている人、または過去にかかったことがある人
 - ・心臓に障害のある人、または過去に心臓に障害があった人
 - ・過去に虚血性疾患（心筋梗塞、末梢動脈閉塞性疾患など）があった人
 - ・過去に静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症など）があった人
 - ・心血管系疾患の危険因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）のある人
 - ・B型肝炎ウイルスにかかっている人、または過去にかかったことがある人（HBs抗原陰性、かつHBc抗体またはHBs抗体陽性）
 - ・他のチロシンキナーゼ阻害剤で副作用のあった人
 - ・肝臓に障害がある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬や飲食物があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- この薬の使用前に肝機能の検査、心機能の検査、血圧の測定、血液検査（膵酵素の検査、血球数の算定など）が行われます。
- B型肝炎ウイルスにかかっている人、または過去にかかったことがある人（HBs抗原陰性、かつHBc抗体またはHBs抗体陽性）が、この薬を使用した場合に、B型肝炎ウイルスの再活性化があらわれることがありますので、この薬を使用する前に肝炎ウイルスの感染の有無が確認され、適切な処置が行われます。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などに合わせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。1回3錠を1日1回飲みます。

一回量	4 5 m g （3錠）
飲む回数	1日1回

- ・他の抗悪性腫瘍薬との併用について、有効性および安全性は確立していません。
- ・血管閉塞性事象または重篤な心不全が認められた場合には、この薬の使用が中止されます。なお、副作用が消失し、治療の継続が患者さんにとって望ましいと判断された場合は、減量などを考慮した上でこの薬が再開されます。
- ・血管閉塞性事象および重篤な心不全以外の副作用が認められた場合には、この薬の使用が延期されたり、使用量が減量、または使用が中止されたりすることがあります。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

飲み忘れた分は飲まずにとばして、次の決められた時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、ただちに医師または薬剤師に連絡してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・定期的に血液検査、骨髄検査、染色体検査などが行われます。
- ・重篤な血管閉塞性事象があらわれることがありますので、胸痛、腹痛、四肢痛、片麻痺、視力低下、息切れ、しびれなどの症状があらわれた場合には、ただちに医療機関を受診してください。
- ・肝機能障害があらわれることがありますので、定期的（使用を始めてからの3カ月間は2週間ごと、その後は1カ月ごと）に、また、患者さんの状態に応じて肝機能検査が行われます。
- ・心不全があらわれることがありますので、必要に応じて心機能の検査（心エコーなど）が行われることがあります。
- ・血圧の上昇があらわれることがありますので、定期的に血圧の測定が行われます。
- ・膵炎があらわれることがありますので、定期的（使用を始めてからの3カ月間は2週間ごと、その後は1カ月ごと）に血液検査が行われます。
- ・骨髄抑制（貧血、白血球減少、血小板減少）があらわれることがありますので、定期的（使用を始めてからの3カ月間は2週間ごと、その後は1カ月ごと）に、また、患者さんの状態に応じて血液検査が行われます。
- ・体液貯留があらわれることがありますので、定期的に体重の測定などが行われます。急激な体重の増加や呼吸困難などがあらわれた場合にはただちに医師または薬剤師に連絡してください。
- ・腫瘍崩壊症候群があらわれることがありますので、血清中電解質濃度や腎機能検査などが行われることがあります。
- ・眼の乾燥、霧視（霧がかかったような見え方）、眼の痛み、結膜の出血などの眼障害があらわれることがあり、網膜動脈閉塞により失明に至った例も報告されています。この薬の使用中は定期的に眼科検査が行われます。このような症状があらわれた場合には、ただちに医師または薬剤師に連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使うことができません。
- ・妊娠する可能性がある女性およびパートナーが妊娠する可能性のある男性は、

この薬を使用している間および使用終了から一定期間は適切な避妊を行ってください。（動物実験で、催奇形性（胎児に奇形を生じる可能性）、子宮内膜萎縮を伴う卵胞への影響、精巣への影響などが認められています。）

- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・グレープフルーツジュースにより、この薬の副作用が強くあらわれることがありますので、グレープフルーツジュースの摂取は控えてください。
- ・セイヨウオトギリソウを含有する食品は、この薬の効果を弱くすることがありますので、セイヨウオトギリソウを含有する食品の摂取は控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、重大な副作用に記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
冠動脈疾患（心筋梗塞、狭心症、急性冠症候群、心筋虚血、不安定狭心症） かんどうみやくしつかん（しんきんこうそく、きょうしんしょう、きゅうせいかんしょうこうぐん、しんきんきよけつ、ふあんていきょうしんしょう）	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、冷汗が出る、胸を強く押さえつけられた感じ、あごの痛み、左腕の痛み
脳血管障害（脳梗塞、脳卒中、脳動脈狭窄、一過性脳虚血発作、大脳動脈狭窄、脳虚血、脳幹梗塞） のうけっかんしょうがい（のうこうそく、のうそっちゅう、のうどうみやくきょうさく、いつかせいのうきよけつほっさ、だいのうどうみやくきょうさく、のうきよけつ、のうかんこうそく）	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然の頭痛、突然の嘔吐（おうと）、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、突然片側の手足の感覚障害がおこる、突然視力障害がおこる、突然めまいがおこる、突然飲み込みにくくなる、突然ろれつがまわらなくなる
末梢動脈閉塞性疾患（間欠性跛行、末梢動脈狭窄、四肢壊死、網膜動脈閉塞症、腎動脈狭窄） まつしょうどうみやくへいそくせいしつかん（かんけつせいはこう、まつしょうどうみやくきょうさく、ししえし、もうまくどうみやくへいそくしょう、じんどうみやくきょうさく）	手足が冷たいと感じる、手足のしびれ、手足の痛み、手足の感覚がなくなる、手足の皮膚が黄色～黒色に変化する、手足の皮膚の潰瘍 【網膜動脈閉塞症】 急激な視力低下、突然の視野障害 【腎動脈狭窄】 脇腹の痛み、腰痛、背中の痛み、血尿

重大な副作用	主な自覚症状
静脈血栓塞栓症（網膜静脈血栓症、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈塞栓症） じょうみやくけっせんそくせんしょう（もうまくじょうみやくけっせんしょう、しんぶじょうみやくけっせんしょう、はいそくせんしょう、じょうみやくそくせんしょう）	皮膚が青紫～暗紫色になる、下肢のはれ、下肢のむくみ、下肢の痛み、下肢（もしくは、はれた部分）の熱感、胸の痛み、突然の息切れ 【網膜静脈血栓症】 急激な視力低下、突然の視野障害、物がゆがんで見える 【肺塞栓症】 胸の痛み、突然の息切れ
骨髄抑制（血小板数減少、好中球数減少、貧血、白血球数減少、発熱性好中球減少症、汎血球減少症、リンパ球数減少、骨髄機能不全） こつずいよくせい（けっしょうばんすうげんしょう、こうちゅうきゅうすうげんしょう、ひんけつ、はつけっきゅうすうげんしょう、はつねつせいこうちゅうきゅうげんしょうしょう、はんけっきゅうげんしょうしょう、りんばきゅうすうげんしょう、こつずいきのうふぜん）	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸（どうき）、息切れ 【血小板数減少】 鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい 【好中球数減少、白血球数減少、発熱性好中球減少症、リンパ球数減少】 発熱、寒気、喉の痛み、突然の高熱 【汎血球減少症】 めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきからの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み 【貧血】 体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
高血圧（高血圧クライゼ） こうけつあつ（こうけつあつクライゼ）	頭痛、肩こり、めまい、動悸、息切れ、顔のほてり、体がだるい、目のかすみ、意識の低下、意識の消失、吐き気、鼻血
肝機能障害（黄疸、肝不全） かんきのうしょうがい（おうだん、かんふぜん）	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる、意識の低下、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
膵炎 すいえん	強い腹痛、背中での痛み、お腹が張る、吐き気、嘔吐、体重が減る、喉が渇く、尿量が増える、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る
体液貯留（末梢性浮腫、胸水、心嚢液貯留、肺うっ血、肺水腫） たいえきちよりゅう（まっしょうせいふしゅ、きょうすい、しんのうえきちよりゅう、はいうっけつ、はいすいしゅ）	むくみ、体重が増える、息苦しい、息切れ、疲れやすい、食欲不振、手足のむくみ、目が腫れぼったい、咳、胸の痛み、体がだるい、血圧低下、息をするときゼーゼー鳴る、痰、呼吸がはやくなる、脈が速くなる、横になるより座しているときに呼吸が楽になる

重大な副作用	主な自覚症状
感染症（肺炎、敗血症） かんせんしょう（はいえん、はいけつしょう）	発熱、寒気、体がだるい 【肺炎】 発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい 【敗血症】 発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい
重度の皮膚障害（剥脱性皮膚炎、多形紅斑） じゅうどのひふしょうがい（はくだつせいひふえん、たけいこうはん）	発熱、全身の発赤、皮膚・粘膜のただれ、水ぶくれ、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしばしば伴う、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、関節の痛み、喉の痛み
出血（鼻出血、胃腸出血、咽頭出血、出血性胃炎、性器出血、硬膜下血腫） しゅっけつ（びしゅっけつ、いちょうしゅっけつ、いんとうしゅっけつ、しゅっけつせいはいえん、せいきしゅっけつ、こうまくかけっしゅ）	出血、鼻血、性器からの出血 【胃腸出血、出血性胃炎】 吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色） 【咽頭出血】 唾液・痰に血が混じる、血を吐く 【硬膜下血腫】 頭痛、意識の低下、意識の消失、片側のまひ、考える力の低下、記憶力の低下、言葉が出ない、尿失禁
心不全 しんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える
うっ血性心不全 うっけつせいしんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重が増える
不整脈（心房細動、徐脈、QT間隔延長、頻脈、心室性不整脈、心停止、房室ブロック） ふせいみやく（しんぼうさいどう、キューティーかんかくえんちょう、じょみやく、ひんみやく、しんしつせいふせいみやく、しんていし、ぼうしつブロック）	めまい、動悸、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ、胸の不快感、立ちくらみ、息切れ、脈が速くなる
腫瘍崩壊症候群 しゅようほうかいしょうこうぐん	意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ



重大な副作用	主な自覚症状
ニューロパチー（末梢性ニューロパチー、末梢性感覚ニューロパチー、多発ニューロパチー、末梢性運動ニューロパチー、末梢性感覚運動ニューロパチー） ニューロパチー（まっしょうせいニューロパチー、まっしょうせいかんかくニューロパチー、たはつニューロパチー、まっしょうせいうんどうニューロパチー、まっしょうせいかんかくうんどうニューロパチー）	手足のしびれ、痛み、力が入らない、筋萎縮、手足のふるえ
肺高血圧症 はいこうけつあつしょう	体がだるい、めまい、むくみ、体重が増える、息苦しい、動悸
動脈解離（大動脈解離） どうみゃくかいり（だいどうみゃくかいり）	激しい胸の痛み、激しい背中の痛み、激しい腹痛

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、発熱、寒気、出血が止まりにくい、突然の高熱、出血しやすい、体がだるい、疲れやすい、力が入らない、食欲不振、体がかゆくなる、急激に体重が増える、体重が減る、むくみ、体重が増える、発熱をしばしば伴う、出血、片側のまひ、痛み
頭部	突然の意識の低下、突然の意識の消失、突然の頭痛、突然のめまい、突然めまいがおこる、頭が重い、めまい、頭痛、意識の低下、意識の消失、考える力の低下、記憶力の低下、気を失う、立ちくらみ
顔面	あごの痛み、鼻血、顔のほてり
眼	突然視力障害がおこる、目のかすみ、白目が黄色くなる、目が腫れぼったい、急激な視力低下、突然の視野障害、物がゆがんで見える
耳	耳鳴り
口や喉	突然の嘔吐、突然しゃべりにくくなる、突然言葉が出にくくなる、突然飲み込みにくくなる、突然ろれつがまわらなくなる、喉の痛み、歯ぐきからの出血、吐き気、血を吐く、嘔吐、喉が渇く、咳、痰、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、唾液・痰に血が混じる、言葉が出ない
胸部	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、胸を強く押さえつけられた感じ、胸の痛み、突然の息切れ、動悸、息切

部位	自覚症状
	れ、息をするときゼーゼー鳴る、呼吸がはやくなる、横になるより座っているときに呼吸が楽になる、胸の不快感、激しい胸の痛み
腹部	お腹が張る、強い腹痛、腹痛、脇腹の痛み、激しい腹痛
背中	背中での痛み、腰痛、激しい背中での痛み
手・足	左腕の痛み、突然片側の手足が動かしにくくなる、突然片側の手足の感覚障害がおこる、手足が冷たいと感じる、手足のしびれ、手足の痛み、手足の感覚がなくなる、手足の皮膚が黄色～黒色に変化する、手足の皮膚の潰瘍、下肢のむくみ、下肢の痛み、下肢（もしくは、はれた部分）の熱感、下肢のはれ、手足のむくみ、脈が速くなる、関節の痛み、脈が遅くなる、脈がとぶ、手足のふるえ、脈が速くなる
皮膚	皮膚が青紫～暗紫色になる、あおあざができる、皮膚が黄色くなる、全身の発赤、皮膚・粘膜のただれ、水ぶくれ、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する
筋肉	肩こり、筋萎縮
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、油っぽい下痢が出る
尿	尿の色が濃くなる、尿量が増える、尿失禁、尿量が減る、血尿
生殖器	性器からの出血
その他	血圧低下

【この薬の形は？】

販売名	アイクルシング錠 15 m g
P T Pシート	
形状	白色の錠剤 
直径	6.4 mm
厚さ	3.2 mm
重さ	103 mg
識別コード	A 5

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ポナチニブ塩酸塩
添加剤	乳糖水和物、結晶セルロース、デンプン、グリコール酸ナトリウム、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、タルク、マクロゴール4000、ポリビニルアルコール（部分けん化物）、酸化チタン

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社 大塚製薬株式会社 (<https://www.otsuka.co.jp>)

医薬情報センター

電話番号：0120-922-833

受付時間：月～金 9：00～17：00

（土、日、祝日、休業日を除く）